

迎え火をたいしていたら
トンボが二匹

スイーツと

庭へ飛んで来た

とても仲良く 行つた

り来たりしている

おじいちゃんとおばあ

ちゃんが

トンボに乗って

帰ってきたんだ

お盆だから

帰ってきたんだ

御先祖様も帰ってくる

何に乗って

帰ってくるのだろう

(ある小学生の詩より)

今年は五月の半ば過ぎから、夏日が観測
されたりして、暑い、暑い夏の到来の予感
がしています。

皆さまには、お元気にお越しのこととお
慶び申し上げます。

◇ ◇ ◇

お盆の季節となりました。

お盆は、目蓮尊者の母を想う心から、お施
餓鬼は阿難尊者の衆生慈悲の心から生まれ
ました。私達は父母孝順の心、廣大無辺な
慈悲の心によつて支えられておりますので、
自分を支えて下さっているすべてのものに
感謝し、報いてゆく姿勢に目覚めることが
大切なことでもあります。そしてお盆の行事
は、まさにこの感謝報恩の心を教えてくれ
る、よい機会といえます。

お盆の由来の物語

その昔、お釈迦様には、それぞれ何か一
つ特別な才能を持つ十人のすぐれたお弟子
様がおられたそうです。

その中に、普通の人の目にはみえない、よ
その世界を見通す力(神通力)を持った目

蓮尊者がおりました。

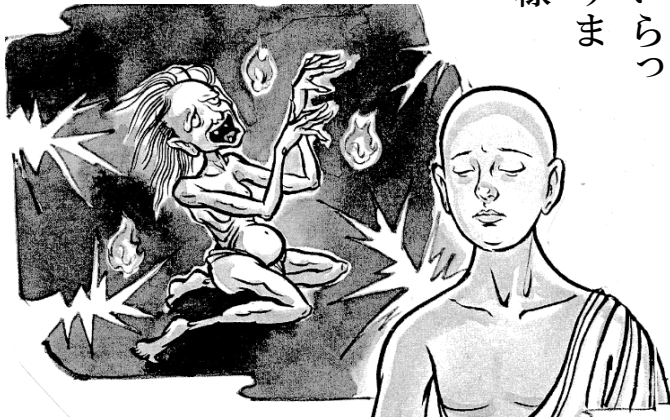
母親思いであつた目蓮様は、ある日、亡くなられたお母様がどうしていらつしやるかと、死者の世界を見渡してみました。すると、どうでしょう。

目蓮様のお母様は、食べる物は何一つなく、水さえ飲むことのできぬ苦しみの世界にいらつしやるではありませ

せんか。目蓮様は大層驚かれ、

さつそくお母様の所へ水や食べ物を持ってとんでいき

ました。しかし、



お母様が大喜びで手を出される食べ物や水は、あつという間に火になつて、燃えてしまふのです。

目蓮様のお母様は、けつして悪い方ではありませんでした。それどころか、目蓮様にとつて慈愛あふれる、やさしい方だったのです。目蓮様は、母の苦しみをみて、ここはもうお釈迦様に助けていただくしかないと考えました。

お釈迦様は目蓮様の話を良く聞いて、久らしくしてから言いました。

「お前の母親は自分の子を愛する気持ちが強く、その気持ちを自分以外の子に向けることをしなかつた。そのために貪りムサボの心にとらわれてしまつた。餓鬼道に堕ちてしまつたのはそのためだヨ」と。

「それでは、母はもう救われないのでですか？」とたずねる目蓮様に、

「自分の母を救おうという孝行心だけでは



救うことは出来ない。
苦しんでいる全ての餓鬼のために善行を積み、今修行をしている沢山の仲間のお坊様が修行から明ける七月十五日、供物を供えて孟蘭盆の法会をしつらえなさい。多くの優れたお坊様が心を一つに祈るならば、その功德によつて、お前の母は他の餓鬼と共にその苦しみから解放されるであろう」とさとされました。

目蓮様は言われた通りにして、母は苦しみから救われたということでした。これが、孟蘭盆経に書かれている、お盆の始まりの物語です。

ところで、目蓮様の母は、特別に身勝手な人間だったのでしょうか？ 誰でも、自

分の子供を育てる時には、時には鬼になることもあるのではないのでしょうか。

母が餓鬼道に堕ちた原因は、他ならぬ目蓮様自身だったことに気づいた目蓮様は、母を救うために広大な心で全ての餓鬼道に堕ちた人々を救わねばならなかったのです。なぜなら、一人我が母の平安を願う心もまた、餓鬼の心に他ならないからです。

餓鬼は私達の心の底に潜む暗い鬼火のように燃えている欲望を象徴しています。

孟蘭盆会の供養は、それに仏の悟りを施しをするということです。仏の悟りとは、自分の欲を捨てて慈愛を実践するということです。



◇ ◇ ◇
ここ数年来、七月、八月ともに午前十一時より、ご先祖様のみ魂をお迎えする法要をお寺で営んでいます。

本来ならば、壇信徒各家一軒、一軒を方

丈さんがお伺いして、御自宅の御仏壇の前にてお経をおあげする棚経が、時間的、物理的な制約から、全家庭をおたずねできないくなり、お寺での法要に変わったものです。一家だけの法要より、親戚や隣近所の人達と行う法要も、地域との一体感を増し、子供の情操教育にまたとない機会ともなります。

お盆、お施餓鬼を始めとするお寺の行事はどちらかと言えば、先祖供養や追善回向と言った言葉に代表される、先祖のための法要として理解されてきました。

でも、その中身を知れば知るほど、戒めや道徳心の奨励ではなくて、実は生きている自分自身への教訓を多く含んでいることが解ります。仏教行事は、死者供養のためだけにあるわけではありません。自らを反省し、他人を思いやり、全ての命と生ともいききを願うみんなが仏の光に包まれて生きる喜びを、

感じとっていききたいものです。



○にこやかな言葉で解かす
トゲの霜

○阿アと生まれ
咩ウンと口を閉づ
このいのち

仏のいのちに 呼吸合わすなり

○信心は 木の葉の上のたまり水
さらさらもゆく
とくとくもゆく

○買ってはいけないもの
恨みとひんしゆくの不評
売ってはいけないもの
恩と油と媚びと喧嘩

ボサ刈りの御礼

毎年、七月第一日曜日に行なわれる施食会（今年は七月五日にあたります）に先だって、六月二十八日（日）に墓地裏山のボサ刈りをしました。

宮川三四郎さんが、傾斜のきつい所を中心に、刈りとりをして下さっていたこともあつて、二時間余りできれいに清掃が終わりました。

皆様の御協力でお寺がきもちよく維持されていますことを、深謝申し上げます。

ご奉仕いただきました方の御芳名をご報告致します。

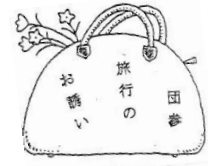
○ボサ刈り整掃勤労奉仕者御芳名

磯崎武志・塩海博・岩本久義・柳貫一・高橋廣司・中山繁三・添田照雄・土屋篤・近藤隆男・泉善六・城所久喜・武井よし子・

酒口晴三・山本茂・宮川三四郎・岡本勝信・大下文夫・中山茂俊・佐久間秀樹・杉山明・池田康二・矢澤隆義・鈴木渡・八幡一夫・添田宜本・椎名邦之輔・杉山昇廣・竹内紀由・竹内宏樹・竹内弘子・岩田政一・齊藤巖・加藤勇・土屋桂一郎・上原健一・菅谷徳男・中山彰・古澤清・中山隆三郎・曾我伸一・重田福夫・加藤勝美・塩海豊久・小笠原実・磯崎徳治・中村泰良・瀬戸恵一・泉陸子・加藤美智江・沢地松次郎・多田芳雄・中山美平・諏訪佳代子

（敬省略）

お寺から



例年行っています、団参は、今年は犬吠崎と小江戸佐原の町並の散策を中心としました一泊二日の旅となっています。是非、ご一緒なさいませんか。

記

○八月三十日（日）～八月三十一日（月）

の一泊二日

○旅行代金 三万二千円

○七月末までに旅行委員またはお寺へお申込み下さい。